

# 第15回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



小学生の部 優秀賞 受賞作品

『ぼくにかんばる力をくれた言葉』

千葉県

湘南ゼミナール 妙典校

小学六年 立花 珂偉

ぼくにがんばる力をくれた言葉

湘南ゼミナール 妙典校 小学六年

立花 珂偉 (たちばな かい)

五年生の春、ぼくは通常学級に転級した。ぼくは、一年生から四年生までの四年間、特別支援学級で過ごしてきた。通常学級に転級して一番苦労したことは、授業のスピードについていけなかったことだ。ぼく一人だけがおいできほりにされている気がして、いつも落ちこんでいた。

そんな時、ドフえもんのマンガを読んでいたら、「人にできて、君だけにできないなんてことあるもんか。」という言葉を見つけた。その言葉を見て、ぼくもがんばればできるはずだと強く思った。

今までのぼくは、全てのことには自信がなく、初めから自分にはできないと決めつけていた。でも、初めからあきらめていたら何も変わらないと思い、まずはチャレンジする勇氣をもとうと思った。

ぼくが一つ目にチャレンジしたことは、家庭科のエプロン作りだ。ぼくは手先が不器用なので、針に糸を通すことさえできず、途方に暮れた。けれど、家でお母さんに手ぬいとミシンを教わり、必死に練習した。学校の休み時間にも練習を続けて、なんとか自分一人でエプロンを完成させることができた。先生に提出できた時は、あきらめずに最後までやりぬいてよかったと思った。

ぼくが二つ目にチャレンジしたことは、友達作りだ。ぼくは五年生になるまで特別支援学級に居たので、通常学級に知っている友達が居なかった。だから、初めの三か月はだれとも話せなかった。休み時間もずっと一人でさびしく過ごしていた。そんな毎日を変えたくて、どうしたら友達ができるか考えた。

まず、自分から積極的に話しかけてみた。そして、少し仲良くなれた友達とは共通の話題を見つけて、たくさん話すようにした。他にもやさしい友達がぼくに話しかけてくれたので、ぼくからもたくさん話しかけるようにした。

ぼくの行動が変わったことで、五年生の秋ごろからは、友達がたくさんできて、毎日が楽しくなった。放課後も友達と公園で遊ぶことができるぐらい仲良くなれた。

ぼくは、初めは自分に自信がなく、ぼくにはできないとあきらめてばかりだった。でも、「がんばれば自分にもできる」という成功体験が大きな自信になって、何事にもチャレンジしようと思えるようになった。だから、これから、何かにつまづいている人を見かけたら、その人が一歩でも前に進めるように、「人にできて、君だけにできないなんてことあるもんか。」というドフえもんの言葉を教えてあげたいと思う。ぼくにもできたんだから、できない人はいないはずだ。